

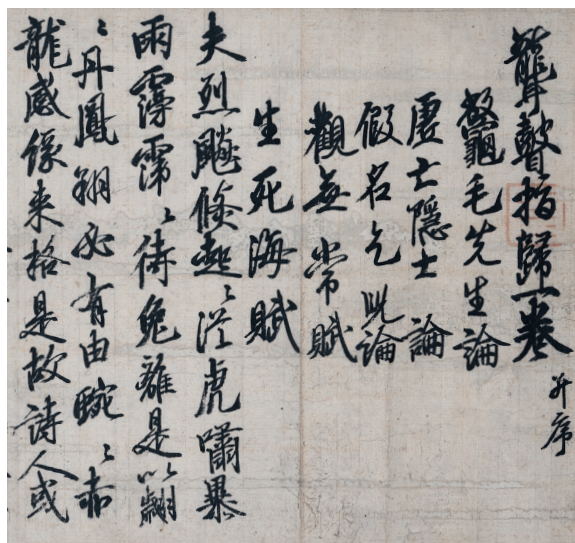
大阪市立美術館開館八十周年記念
公益社団法人日本書芸院創立七十周年記念

王羲之から空海へ一日中の名筆 漢字とかなの競演

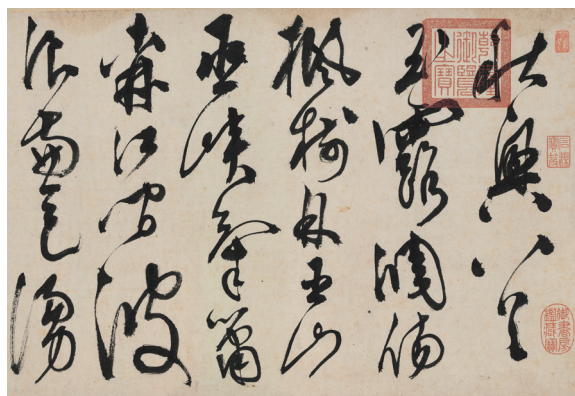
2016年4月12日(火) — 5月22日(日)



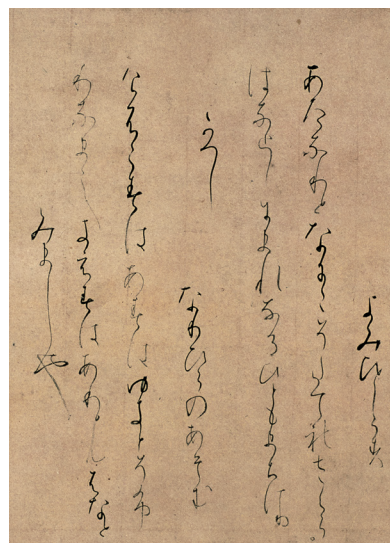
1



2



3



4

1. 王羲之「蘭亭序(開皇本)」(部分)
東晋・永和9年(353) 東京国立博物館
Image : TNM Image Archives
2. 国宝 空海「聾瞽指歸」(部分)
平安・延暦16年(797) 和歌山 金剛峯寺
3. 陳淳「草書杜甫秋興詩」(部分)
明・嘉靖23年(1544) 台北 國立故宮博物院
4. 重要文化財 伝紀貫之「高野切第一種」(部分)
平安・11世紀 福岡 石橋美術館

本年、大阪市立美術館は開館八十周年を迎えます。これを記念して、日中の名筆を一堂に集めた展覧会を開催します。

関西地区では、王羲之を中心とする法帖やその流れをくむ作品を学んで一家をなす書家が多く、また日本の書法史も王羲之書法をもとにして独自の発展を遂げて来ました。そこで本展では、王羲之以来の書法の伝承を中国・日本それぞれの名品によって回顧します。

中国書蹟では、王羲之「孔侍中帖」、王獻之「地黄湯帖」の双鉤填墨や「集王聖教序」「蘭亭序」の精拓から始まります。唐では天下の孤拓たる虞世南「孔子廟堂碑」、褚遂良「孟法師碑」や歐陽詢「九成宮醴泉銘」(海内第一本)といった教科書でもお馴染みの初唐三大家、蔡襄・蘇軾・黄庭堅・米芾の宋四大家が勢ぞろいします。さらに元の趙孟頫、明の祝允明・文徵明・董其昌らを経て明末清初の王鐸らに至る大家の作品約90件を展示します。

日本書蹟では、中国から筆法が伝わった飛鳥・奈良の写経を皮切りに、三筆では空海「聾瞽指歸」「風信帖」「灌頂歴名」や嵯峨天皇「光定戒牒」など、三跡では小野道風「三体白氏詩卷」、藤原佐理「国申文帖(女車帖)」、藤原行成「後嵯峨院本白氏詩卷」などが

集まります。そして「高野切」「寸松庵色紙」「継色紙」といった平安古筆の数々を経て江戸時代に至る約120件が出品されます。

また篆刻では、戦国秦漢の古璽や、呉昌碩・徐三庚など清末民初の優品約20件を陳列。あわせて数多くの国宝や重要文化財を含む約230件が揃います。

さらにこのたびは、台湾からも名品を迎えることができました。中国の書では世界最高の質量を誇る國立故宮博物院に、まず貴重な宋の四大家の作品各一件をお願いしました。元の趙孟頫が師の中峰明本に宛てた書信は、日本の静嘉堂文庫美術館蔵の国宝とともにご覧いただけます。日本では真蹟が希少な沈周・祝允明・文徵明・陳淳・王寵といった明代の巨匠たちは名立たる代表作を選びました。いずれも初来日の作品です。明清の書のコレクションが豊富な何創時書法藝術基金會からは、張瑞図・黄道周・王鐸・傅山などの明末清初の名品・珍品が来日します。

(弓野 隆之)

作品リスト・展示期間については当館ホームページをご覧ください。